

地域おこし協力隊通信

第46回



リポーター…
小林正英 隊員



右から 菊地悠平、小林正英、菊池優、横地綾人

いたこミズベデザインの代
表理事は、潮来市内に住む横
地綾人。東京からの移住者で
す。理事は私を含めて3人。
株式会社KXの菊池優と菊地
悠平。こちらの2人は鹿嶋に
住む移住者。つまり全員がこ
の鹿行地域への移住者です。
外の目線から見れば、水郷潮
来の水資源は非常に
貴重。私も最近、
潮来での生活に慣れ
てきて、移住してき
た当初より真新しさ
を感じなくなってい
きましたが、やはり他
の市町村と比べても
潮来の水辺は特殊だ
なあと感じます。
そんな貴重な潮来
の水資源を今より楽
しむ、そして今後も
維持していくことを
テーマに活動してい
きますので、皆さま
ご協力よろしくお願
いします。

こんにちは！潮来市地域おこし協力隊の小林です。今回は私が取り組んでいる水辺の事業についてお話しします。
これまで、LOC SUP ITAKO という名前の任意団体で、SUP（大きなサーフボードの上に立ちパドルを漕いで進むアクティビティ）の体験を行ってまいりました。今後は社会的な信用を得るため、そして持続可能な団体にするため、2023年1月末に法人登記し、「一般社団法人いたこミズベデザイン」として、名前を新たに活動することとなりました。ちなみにLOC SUP ITAKOは任意団体として残す予定。一般社団法人いたこミズベデザインでは、SUP

の体験だけでなく、潮来の水辺を盛り上げるため、水辺を活用したイベントの運営や水質浄化などの環境事業にも関わっていきたくと思っています。もし我々の活動にご興味のある方は、協力隊のFacebookなどでご連絡いただけると幸いです。みんなで潮来の水辺を盛り上げていきましょう！

～おしえて!! 認知症～ =第17回=

グループホームってどんなところ？

認知症地域支援
推進員が教えます



グループホームは、病名を「〇〇認知症」と診断され自宅で生活することが難しい方5～9名が、介護スタッフとともに食事の支度や掃除、洗濯などを共同でしながら、家庭的な生活空間で自立した生活を営むことを支援する施設です。こうした環境が認知症の進行をゆるやかにし、スタッフを含め常に誰かが周りいることで安心して生活できる住まいでもあります。介護度は要支援2以上なので、体は元気で軽い物忘れ程度の方が比較的多いのも特徴です。
住み慣れた自宅ではないけれど、家庭的な雰囲気の中で、生活の中に役割を持ち自分の能力を発揮しながら、その人らしい人生を送っていただける場所です。たとえ他人との共同生活でも、本人にとっては家の暮らし（疑似家族生活）になり、一人ではない生活を送れるのがグループホームです。



グループホームこころ
代表 高橋勝弘さん



認知症カフェ「いたこハートカフェ」次回開催予定

日時：4月12日（水）午後2時～3時30分
定員：10名（要予約）
場所：グループホームこころ内「カフェつぐみ」（潮来市日の出1-21-1）
申込み：グループホームこころ
☎ 80-9055
2月の参加者は5名でした🍷(^_^)